

「悔い改めない町と弟子たちの宣教」

2023年01月07日

「しかし、裁きの時には、お前たちよりもまだティルスやシドンのほうが軽い罰で済む。カファルナウムよ、お前は天にまで上げられるとでも思っているのか。陰府にまで落とされるのだ。」（ルカ10：14～15）

「蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ權威を、私はあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」（ルカ10：19～20）

主イエスは、ガリラヤのコラジンやベトサイダで力強い奇跡を行われた。人々は、その奇跡に驚き、感嘆したが、主イエスの言葉を受け入れず、悔い改めなかった。異教のティルスやシドンで奇跡を行っていたら、これらの町は灰の中に座って悔い改めたであろう。裁きの日には、ガリラヤの町々より、ティルスやシドンの方が軽い罰で済む。ユダヤ人は、神を知る信仰深い民族であると誇っているが、信仰がない。彼らが汚れた民族と軽蔑している異教の町々の方が裁きは軽い。カファルナウムは信仰深い町なので、天に上げられるとでも思っているのか。とんでもない。陰府まで落とされる。主イエスの言葉を受け入れない町や村を厳しく断罪している。信仰には、ユダヤ人は神の民であるという民族的な既得権はない。今、ここで、初々しく受け入れることが信仰であると論している。

そして主イエスは、宣教に遣わす弟子たちに、「あなたがたに耳を傾ける者は、私に耳を傾け、あなたがたを拒む者は、私を拒むのである。私を拒む者は、私をお遣わしになった方を拒むのである」と言われた。弟子たちの言葉を聞く者は主イエスに聞き、あなたがたを拒む者は主イエスを拒み、その者は主イエスを遣わした神を拒む。主イエスに聞き入ることが、神を受け入れ、信じることである。主イエスを通してのみ、神が啓示されているからである。

七十二人は宣教に遣わされ、大きな成果を上げ、喜んで帰って来た。そして、「主よ、お名前を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します」と、勢い込んで報告した。主イエスは、「私は、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた」と、弟子たちの宣教が成果を上げているのを見ていたと、彼らの宣教をねぎらわれた。そして、宣教の成果が上がったのは、「蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ權威を、私はあなたがたに授けた」からだと言われ、更に、「だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない」と言われた。弟子たちは、主イエスから民衆を苦しめる悪魔の諸力に打ち勝つ權威を授けられていたので、その權威に守られ害を受けることなく、苦しむ民衆を解放させる「神の国」を力強く宣教できたのである。

主イエスはだから、「悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではならない」と、悪霊を追放する力は、弟子たちの力や能力でなく、神からのものであると言われ、「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」と言われた。主イエスから宣教に遣わされ、悪霊を服従させたことを喜ぶのではなく、天に名が書き記されていることを喜ぶ。宣教は神が先導され、成し遂げてくださる、その宣教に携わった者は、天に名が記され、永遠の命に与る栄誉を受ける。この栄誉が弟子たちに約束されていると。宣教者は神の祝福の中にあると語られた。